

港のたより～「北九州港」(門司地区編)

昭和 38 年 (1963 年) に門司、小倉、戸畑、八幡、若松の 5 市が合併、北九州市誕生し、同時に外国貿易の門司港、国内流通の小倉港、そして工業港の洞海港と位置づけられ、総称して北九州港と名づけられた。今回は西日本海運(株)関谷社長の案内の下、同社所有の通船兼作業船「めかり」(19 屯)に乗船させていただき、門司地区の各埠頭と下関港を見学させていただきました。



【田野浦埠頭】



【太刀浦コンテナターミナル】

門司港を出発した「めかり」は関門海峡をくぐり、田野浦から太刀浦に向う。田野浦埠頭は西日本最初のコンテナターミナルとして建設されました。

平成 16 年から、主に中古自動車の輸出基地として利用されていたようですが、現在では西日本一円の青果物の輸入基地にもなっています。また隣接する太刀浦埠頭は水深 12m と 10m の二つのターミナルから成り、ガントリークレーン 7 基を備え、現在東南アジアや中国、韓国などコンテナ定期船が 31 航路数、月 165 便が就航しています。

関門海峡に沿って建つ小さな神社は福岡県の無形民俗文化財に指定されているのは和布刈神社といい、その昔、壇ノ浦の合戦前夜平家が勝利を祈願した神社とも云われており、旧暦元旦には神官が厳寒の海に入り、岩戸についたカメを刈取り神前に供える神事で有名だそうです。海に面した神殿が、漁や船の航行を見守っているようです。



【和布刈(刈)神社】

さて、下関港は門司港の対岸に位置しており北九州港と合わせて関門港の一部を成し、北部九州の中枢国際港湾に位置づけられています。韓国釜山港とは 220km の距離で本州から最短に立地しており、明治に入ってから対韓貿易が中心となりました。地理的な優位性



【巖流島を望む】

を生かしスピーディな輸送体制を整えるため、日本の港湾では最初の年中無休による通関実務を実施する等、官民一体となって取り組んでいます。門司港に帰港する際、右手に巖流島を望みました。武蔵と小次郎の決闘で有名な小さな島も、今ではのんびりと島内を散策できる観光名所となっています。



【下関港】



【関門通橋中の LNG 船】

門司港に下船後、関門海峡を通過しようとしている内航 LNG 船を見かけました。新和ケミカル(株)運航の第二新珠丸です。第一新珠丸と同型船で 2,930 総トン (2,500m³ 型)、戸畑港から瀬戸内に向っているようでした。活気のある貿易と観光スポットが共存している門司港周辺をご紹介します。

(2010.5.12.三木)